

銅 概 況

大阪市中央区玉造 2 丁目 28 番 10 号
加藤金属興業株式会社

◎ 平成 30 年 11 月の国内電気銅建値は下記の通りです。

11 月	1 日	～	720 円/Kg
11 月	5 日	～	760 円/Kg
11 月	8 日	～	740 円/Kg
11 月	13 日	～	730 円/kg
11 月	16 日	～	750 円/kg
11 月	21 日	～	740 円/kg

平成 30 年 11 月度は平均で 741.00 円/kg となり、前月比 3.70 円/kg の値下がりとなりました。

海外銅価の動き

11 月の LME 銅相場	11/1 ～ 11/29 (安値ドル 6,070.00～6,262.00 高値ドル)
11 月の NYC 銅相場	11/1 ～ 11/29 (安値セント 267.80～280.45 高値セント)

11 月度の LME 現物は、11/1 \$6,070.00 でスタート。前月から \$6,000 を超えたところの狭いレンジ内の動きで終始している。政治、経済共に米中の動きに影響される状況の中で、米中間選挙では共和党が下院で敗北し、上院とのねじれが生じる状況に。トランプ政権が推進する大型減税などが難しくなると見られドル安に振れ、それを受けた銅相場は一時的に好転するも続かない。中旬には、月末ブエノスアイレスで開かれる G20 に合わせて行われる米中首脳会談に先立ち中国副首相の訪米準備が報じられるなど、両国の緊張緩和が進展するとの期待感が相場の好材料となった。またその後も米当局からの情報で、米中の貿易摩擦を緩和する措置を講じる用意があるなど一部メディアが報じたことから、“貿易戦争”の終結に向けた再交渉の可能性がにわかに浮上したことから、後半にかけて \$6,200 を超えた好ポジションでの動きとなった。

銅需給バランス…Brook Hunt 情報 2018 年 10 月 資料より (単位/千トン)

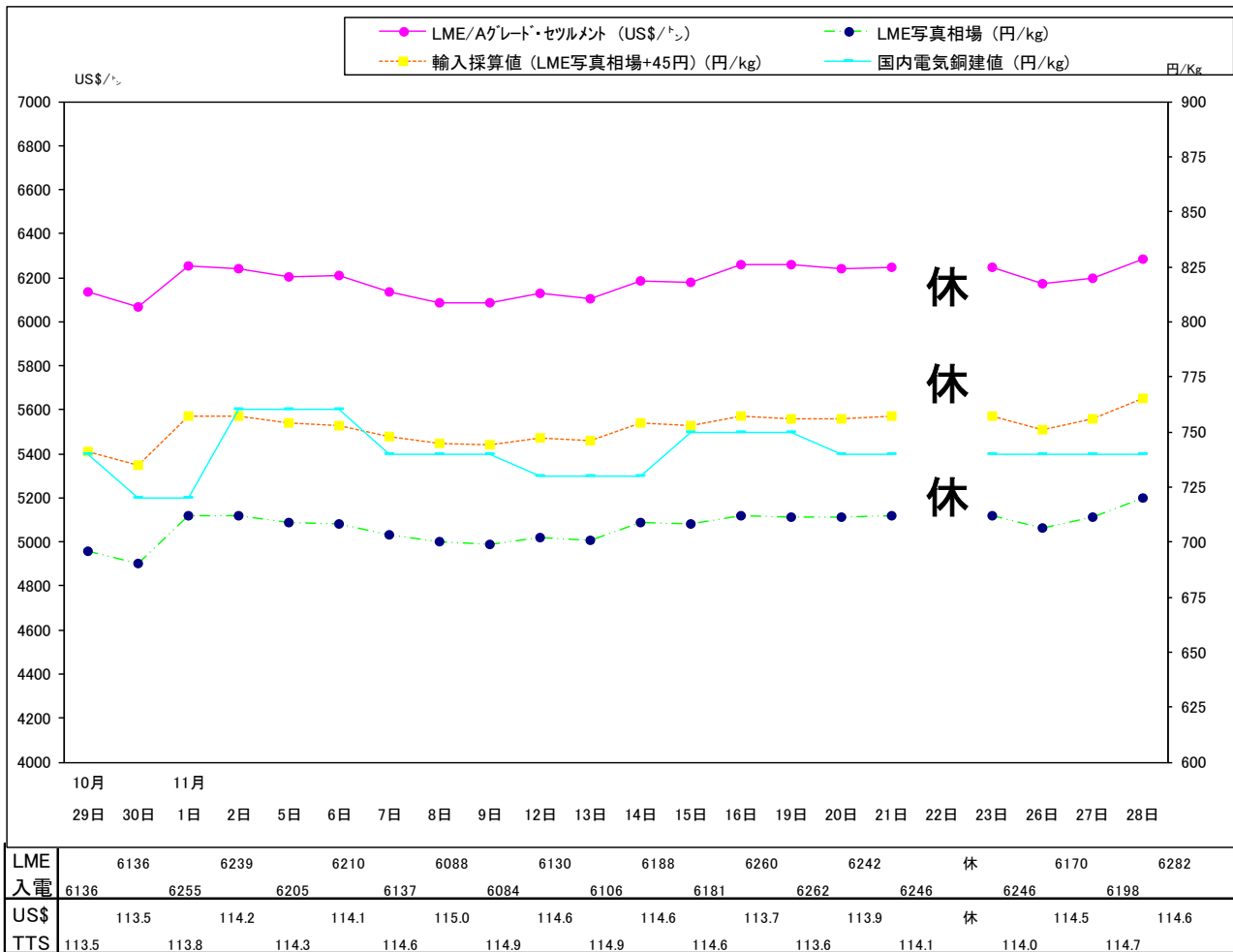
	2017年 実績	2018年 実績	前年比	2019年 予想	前年比	2020年 予想	前年比
全世界地金生産	23,078	23,491	+1.8%	23,998	+2.2%	24,917	+1.9%
全世界地金消費	23,136	23,703	+2.5%	24,234	+2.2%	24,665	+1.5%
全世界需給バランス	-58	-211		-236		-202	

先行き短期見通

国内銅価

11 月度の国内建値は 1 日 720 円/kg でスタート。5 日 760 円に上がるも、8 日には 740 円ダウン。13 日 730 円、16 日 750 円、21 日に 740 円とした。狭いレンジ内で小幅な上げ下げで終始する形に。11/29 付 LME \$6,282.00、29 日付 為替 (TTS) 1USD=114.65 円で日本円換算計算値 720 円/kg。2018 年 12 月の国内電気銅建値のスタートは、以降変化のない限りでは、760 円の予想です。

◎ LME相場推移及び国内電気銅建値推移



◎ 平成30年11月の国内亜鉛建値は下記の通りです。

- 11月 1日 ~ 337 円/kg
- 11月 9日 ~ 343 円/kg
- 11月 16日 ~ 352 円/kg
- 11月 21日 ~ 349 円/kg
- 11月 27日 ~ 343 円/kg

平均343.40円/kg

平成30年11月は上記の通りで前月比 8.50 円/kg の値下げとなりました。

これはLME亜鉛相場の下落で引き下げられたもの

◎ その他の建値

電気鉛	11月	282.00 円/kg	(前月比-	10.00 円/kg)
電気錫(相対)	11月	3,620.00 円/kg	(前月比+	20.00 円/kg)
ニッケル(溶解用)	11月市中価格	1,350.00 円/kg	~ 1,400.00 円/kg	
銀	10月平均	54,310.00 円/kg	(前月比+	1,610.00 円/kg)
	11月29日	53,790.00 円/kg		
金	10月平均	4,433.05 円/g	(前月比+	93.94 円/g)
	11月29日	4,486.00 円/g		

◎ 伸銅品関係

平成30年10月の伸銅品・品種別生産速報(全国ベース)

		9月度実績	10月度速報	前月比	前年10月度実績	前年同月比
銅	板	1,329	1,362	2.5%	1,321	3.1%
	条	22,319	24,731	10.8%	23,885	3.5%
	管	9,487	10,319	8.8%	9,972	3.5%
	棒	2,141	2,482	15.9%	2,367	4.9%
	線	268	332	23.9%	272	22.1%
黄銅	板	594	632	6.4%	562	12.5%
	条	9,445	10,407	10.2%	9,089	14.5%
	管	524	593	13.2%	562	5.5%
	棒	15,106	16,002	5.9%	16,683	-4.1%
	線	2,501	2,675	7.0%	2,507	6.7%
青銅	板	2,397	2,515	4.9%	2,938	-14.4%
	条					
	棒	238	251	5.5%	230	9.1%
	線	66	69	4.5%	69	0.0%
洋白・その他	板	474	534	12.7%	517	3.3%
	条					
	棒	39	34	-12.8%	38	-10.5%
	線	387	462	19.4%	454	1.8%
合計		67,315	73,400	9.0%	71,466	2.7%

10月の伸銅品生産速報は、73,400トンで前月比プラス6,085トン、前年同月比+2.7%となり、前年同月比が5ヶ月ぶりにプラスとなりました。

電 線 関 係

電線工業会がまとめた銅電線主要7部門別出荷数量の8月分実績及び9月分推定によれば、8月分実績は、その他内需が前年同月比でわずかに減少。輸出も同4.3%下降したものの、建販が同4.5%増と順当に動くなど7部門中5部門が上回り総計5万5千59tで同2.6%伸長した。4月以降5ヵ月連続で前年を上回った。また、9月の銅電線ケーブルの出荷推定では、7部門すべてが前年を割り込み、総計は5万6千900tで同5.5%減となった。前年同月が6万tを超え好調だったことがあり7ヶ月ぶりに減少の見込み。

結果18年度上期は建販が3.6%伸びたほか、自動車、輸出の3部門が増加し、総計は34万2千120tで前年同期比1.7%増加。

また、8月分の部門別出荷量をみると、プラスグループは5部門になり、通信は10ヵ月振りに増加に転じ、6.7%上回った。これは昨年の数字が低いためで楽観は出来ない。電力は一部の張替需要が発生した上、前年実績が低いため3ヵ月連続で増加し、同1.5%伸長した。自動車はSUV(多目的スポーツ車)が好調で同2.7%増加した。電気機械は、医療用途などが健闘し同0.6%の微増となった。建販は東京五輪や再開発案件などが幾分動き、同4.5%増えた。ただ、9月は7ヶ月振りに1.7%減少する見通し。下期からは需要期に入る見込み。マイナスグループはその他内需と輸出の2部門。その他内需は設備投資が伸び悩み同1.3%減と再び水面下に沈んだ。輸出も電力のスポット需要がやや苦戦し、同4.3%減少した。

2018年8月分(実績)・2018年9月分(推定)主要部門別出荷

部門	数 量						金 額		
	8月実績 (t)	対前月 比(%)	対前年同 月比(%)	9月推定 (t)	対前月 比(%)	対前年同 月比(%)	8月実績 (百万円)	対前月 比(%)	対前年同 月比(%)
通 信	844	2.3	6.7	900	6.6	▼1.6	1,455	(3.1)	17.6
電力	(1,277)	(22.9)	(6.7)	(2,000)	(56.6)	(29.3)	986	(28.1)	(16.5)
	3,857	▼13.5	1.5	4,300	11.5	▼4.4	4,689	▼19.7	16.4
電気機械	(306)	(▼33.8)	(▼7.6)				296	(▼33.5)	(▼8.4)
	11,356	▼12.2	0.6	11,700	3.0	▼7.8	16,147	▼12.1	7.4
自動車	(76)	(▼24.8)	(▼9.5)				310	(▼23.1)	(▼7.5)
	6,018	▼13.6	2.7	7,000	16.3	▼6.1	27,871	▼14.0	9.4
建設・電販	(13)	(18.3)	(0.0)				23	(53.3)	(155.6)
	27,512	▼2.1	4.5	26,700	▼3.0	▼1.7	32,266	▼3.3	9.0
その他内需	(78)	(34.5)	(44.4)	(600)	(26.8)	(▼5.4)	89	(36.9)	(64.8)
	418	▼4.8	▼1.3	4,500	7.4	▼2.4	6,629	▼8.2	1.9
内需計	(1,750)	(4.7)	(4.2)	(2,600)	(48.6)	(19.2)	1,705	(0.4)	(8.9)
	53,775	▼6.8	2.8	55,100	2.5	▼3.9	89,058	▼9.7	8.8
輸出	(21)	(▼93.4)	(▼68.2)	(400)	(1804.8)	(412.8)	21	(▼86.8)	(▼71.2)
	1,284	▼28.1	▼4.3	1,800	40.2	▼36.8	4,916	▼23.1	▼24.7
合計	(1,771)	(▼11.0)	(1.5)	(3,000)	(69.4)	(32.8)	1,726	(▼7.1)	(5.3)
	55,059	▼7.4	2.6	56,900	3.3	▼5.5	93,974	▼10.5	6.3
心線販売	(1,048)	(▼19.9)	(22.3)	(1,400)	(33.6)	(38.9)	293	(▼21.4)	(32.6)
	27,142	▼11.4	3.9	31,100	14.6	0.6	20,292	▼14.5	12.8

(注) ()内はアルミ線を示し外数。ただし推定欄のアルミ線は電力、輸出部門以外は

「その他内需部門」に一括計上。▼はマイナス。

金額は四捨五入の為計が合わない場合がある。

2018年8月分品種別出荷 単位:銅量:トン アルミ量:トン 金額:百万円

品 種	数量	対前月比 (%)	対前年 同月比	金額	対前月比 (%)	対前年 同月比	
裸線	3,234	▼13.9	▼2.9	2,827	▼21.1	▼2.8	
巻線	10,323	▼14.8	1.2	11,352	▼15.1	14.0	
機器用電線	3,421	▼6.3	▼0.8	9,866	▼9.4	3.5	
通信用電線・ケーブル	1,473	0.6	5.4	3,252	1.7	8.8	
電力用電線・ケーブル	20,814	▼4.0	7.3	22,138	▼6.8	14.3	
被覆線	10,829	▼1.9	▼1.3	15,270	▼3.4	3.9	
輸送用電線	4,965	▼13.7	1.6	29,269	▼15.0	1.1	
銅電線計	55,059	▼7.4	2.6	93,974	▼10.5	6.3	
EM電線・ ケーブル	通信用電線・ケーブル	83	▼3.5	18.6	274	▼2.1	18.6
	電力用電線・ケーブル、被覆線	2,992	3.0	▼0.5	3,479	1.7	5.3
	計	3,083	2.7	▼0.1	3,801	1.3	6.4
アルミ電線計	1,771	▼11.0	1.5	1,726	▼7.1	5.3	
光製品	4,410,774	3.6	16.3	22,696	0.3	9.4	
うち、光ファイバーケーブルコード	-	-	-	4,442	21.1	13.6	

(注) 1. EM電線・ケーブルはJCS規格17品種が対象であり、機器用、消防用等のノンハロタイプは含まれない

(注) 2. 四捨五入の為計が合わない場合がある。

(注) 3. 光製品の数量はkmc

(注) 4. ▼はマイナス

◎ アルミニウム関係

○ 国際アルミニウム地金相場の第1週は、中国の10月PMIが50.2と前月より低下。米中貿易摩擦の影響により\$2,000を割り込んでスタート。第2週、注目された米国中間選挙の結果は、事前の予想通りとなり、選挙情勢を巡る不透明感は払拭され米国株市場は好感。また、ブラジル・アルノルテアルミナ製錬所の活動を引き続き制限するとの報道が流れ相場を押し上げた。しかしFOMCで利上げ継続の姿勢を示したことからドル高が進行。結果的に相場の上げ幅を削る形になる。第3週は、中国小売上の実質の伸びが前年同月比5.6%と過去最低の水準となり相場の重しとなる。また、中国の10月アルミ生産量は272万MT。前月比微減であるが、1~10月の生産量前年同期比4.4%増の2,771万MTは年間では依然過去最高レベル。第4週、APEC首脳会談で米中の対立によって首脳宣言採択が見送られ米中貿易戦争の激化懸念から上値は重く、また、EUのイタリア財政問題、イギリスの離脱問題など市場のセンチメントは悪くリスクオフの地合いで推移。最終週、10月の中国アルミナ輸出量は46万MTと引き続き高水準。アルミナの需給タイト感の緩和に繋がればアルミ価格のサポート要因は弱まる。パウエルFRB議長による利上げペースの鈍化を示唆する発言を背景に米国株が急騰する中\$1,900~2,000の広い幅のレンジでの展開が想定される。

○ 対日オファー及び国内価格

- ・対日オファー（CIF） 2018年11月積 2,110.00~2,123.00 ドル/トン
- ・輸入採算価格 2018年11月積 255.10~256.60 円/kg
- ・NSP 2018年9月 285.10 円/kg
- ・NSP（メーカー対応価格） 2018年10月~12月 310.00 円/kg

○ IAI統計アルミニウム新地金生産高（単位=千トン）

	'18年9月	'18年10月	'17年10月
月生産	2,291.0	2,364.0	2,349.0
平均日産	76.4	76.3	75.8

(*＝訂正有り) 中国は対象外にしております。

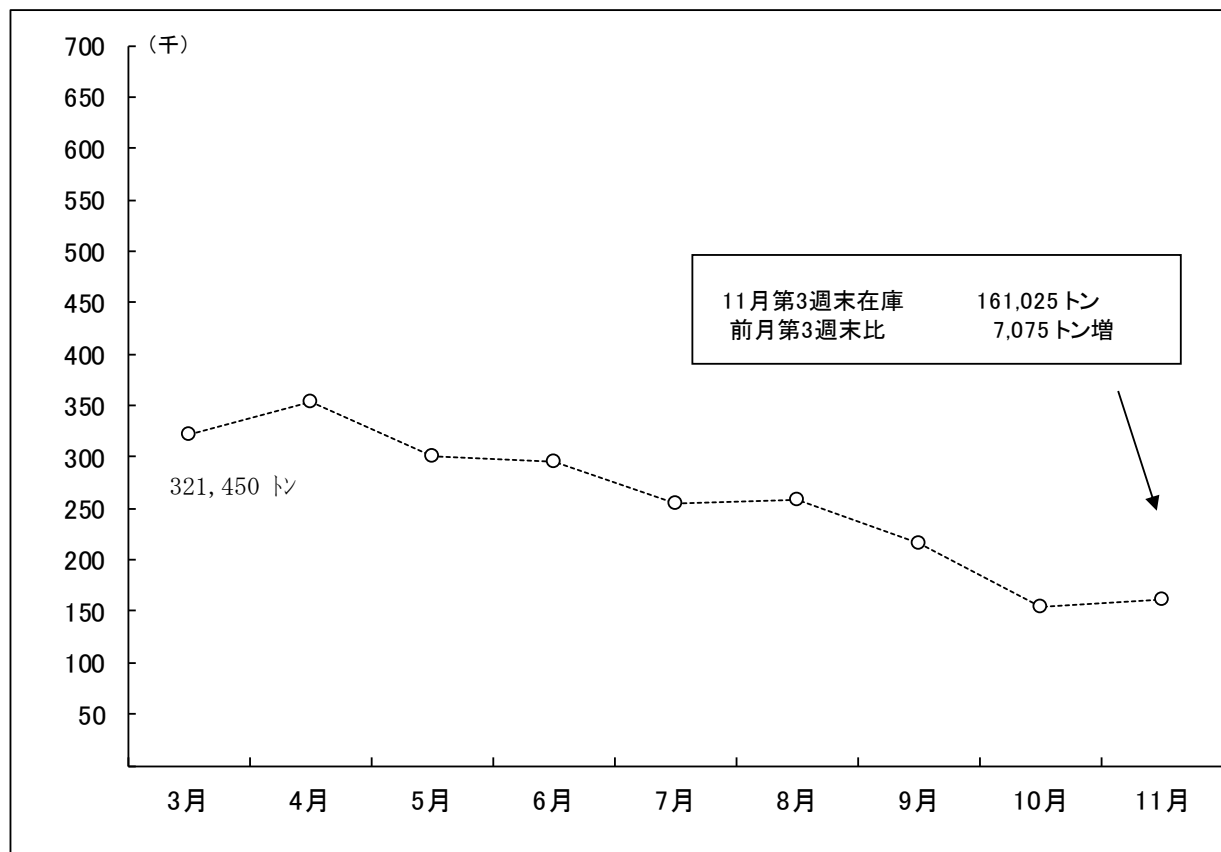
○ アルミインゴット港湾在庫

(単位：トン)

	2018年7月	2018年8月	増減	2017年8月	増減
横浜	156,600	166,200	+9,600	137,800	+28,400
名古屋	138,800	142,400	+3,600	136,900	+5,500
大阪	15,000	15,000	±0	15,000	±0
合計	310,400	323,600	+13,200	289,700	+33,900

上記アルミインゴット港湾在庫に変更致しました。(2015年1月分からの変更です)

◎ LME銅在庫 (各月第3週末参考)



◎ COMEX在庫 (第3週末)

・30年11月16日現在 146,176 S T 前月比 17,549 S T 減

◎ 国内山元電気銅在庫

・30年9月末 102,779 トン 前月比 885 トン減

◎ 伸銅品生産実績

・30年9月確報 67,315 トン
・30年10月速報 73,400 トン 前月比 109.4 %

◎ 電線出荷実績

・30年10月速報 64,300 トン 前月比 113.0 %

◎ 軽圧品生産実績

・30年 10月	板 類	106,016 トン	
	押出類	71,145 トン	
		<hr/>	
		177,161 トン	前月比 108.6 %

以上簡単ですが銅概況、他のご報告申し上げます。